

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 14 日現在

機関番号：34304  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2012～2014  
 課題番号：24520669  
 研究課題名(和文) Graded readers and native speaker books  
  
 研究課題名(英文) Graded readers and native speaker books  
  
 研究代表者  
 クラフリン マシュー (CLAFLIN, Matthew)  
  
 京都産業大学・外国語学部・准教授  
  
 研究者番号：30387998  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：多読管理ソフトMReaderで英語学習者がネイティブ・リーダーレベルに到達する道筋を作りました。各レベルで児童文学などを盛り込みながら、MReader説明資料の中でグレイデッド・リーダー(英語学習者用の本)とネイティブ・リーダー用の本の違いとそれぞれのメリットを明確にしました。一方で公共の図書館と連携取りながら、レベル別推奨本リストを提供した後、京都市2館では約2千冊の英語多読の本が導入されました。公共図書館と小中学校で英語多読のアプローチを広めるため、TRC株式会社、京都市教育委員会の英語シャワー担当矢野先生と東京都台東区の区議会議員さん(文教委員)と会いました。論文は現在作成中です。

研究成果の概要(英文)：During the course of and related to this research I have attended 2 international and 5 national conferences, given or helped give 6 conference presentations and given 5 open lectures at public libraries. Research-related activity has appeared in 2 newspaper articles (the Japan Times and Kyoto Shinbun), I have received one Kyoto Board of Education prize and have worked with said board and talked to politicians from Tokyo and a range of public library librarians to implement extensive reading including a bridge to native speaker books.

While the work is still very much in progress, results have included the clear separation in MReader (the current name of MoodleReader) charts of graded readers and native speaker literature, the addition of a wide range of native speaker books quizzes at most levels in MReader, the purchase of more than 2,000 English books by public libraries, and ongoing testing of material in a range of courses. The final paper for this research is still being written.

研究分野：英語教育

キーワード：多読多読 Extensive reading Graded readers

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を理解するため、二つのコンセプトが必要となります：『多読』と『グレイディッド・リーダー』。オックスフォード大学出版局の『グレイディッド・リーダーを上手に生かすための日本語版ガイド』によると：

多読においては、学習者は莫大な量の簡単なテキストを読み込むことによって、スムーズに自信を持って、そして楽しく読めるようになるのです...学習者は自分の読みたいものを選ぶので、リーディングにおける流ちょうさと自信を得ることができます。

この『簡単なテキスト』はほとんどグレイディッド・リーダーと言う英語学習者用の本です。上記のオックスフォード大学出版局のガイドによると：

グレイディッド・リーダーは...語彙や文法を簡易化して、学習者が読むときの抵抗感を小さくして、物語を簡単に理解できるようにしてあります。

本研究開始当初、英語多読学習法は日本で広がり続けていました。グレイディッド・リーダーはオックスフォード大学出版局などの出版社から大量に出版されていました。ただし、このような英語学習者用のグレイディッド・リーダーからネイティブ・リーダーへの読み物のつながりは明確ではなかった。

(2) 多読では、学習者は基本的に授業外で自分のレベルで好きな本を読みます。この授業外の読むことを授業の成績に加算されるように、京都産業大学外国語学部英米語学科(現在の名は英語学科)は MoodleReader (現在の名は MReader) と言うソフトを開発し続けています。MReader では学生に学期内であれば24時間いつでも受けられるオンラインテストを提供し、学生のリーディングをトラッキングしています。MReader のテストはボランティア教員が作成しています。(本研究者は現在300テスト以上を作成した) MReader は急速に日本や海外の高校・大学で利用され始めたので、本研究では MReader に明確なグレイディッド・リーダーからネイティブ・スピーカへの道筋を指し示すことを目指しました。

## 2. 研究の目的

多読というアプローチは言語学習の分野で実績が認められてきた。この研究の目的は主に以下の4点に集約される。

(1) L1リテラシー研究の中でL2に応用できるものを発見する。(特に多読の分野において)

(2) グレイディッド・リーダーとネイティブスピーカ-文学の間の橋渡しとなるものを見つける。(児童文学など)

(3) 上記(2)のものを MReader に導入する。

(4) 新しい多読プログラムを開発する(ブックリスト作成など)

## 3. 研究の方法

初年度(平成24年度)では研究を実施するにあたって必要な設備を購入、情報収集を次のように行いました。

(1) 研究環境の整備(多読教材の増設、多読教材貸し出しシステムの改良)

(2) L1リテラシーに関する国際学会への参加

(3) 実際の授業など教育カリキュラムにおいて新教材を試行する

(4) インタビューによる新教材の適切性などの調査

平成25年度は本研究の本格的活動を行う年の予定でありました。以下の活動を実施する計画がありました。

(1) データを集める(MReader、アンケート、インタビューなど)

(2) L1リテラシーにおける教材調査、収集

(3) L1リテラシーに関する国際学会への参加

(4) MReader を利用した多読システムのブラッシュアップ

(5) 実際の授業など教育カリキュラムにおいて新教材を試行する

(6) インタビューによる新教材の適切性などの調査

最後に、平成26年度では前年度までに収集したデータや調査結果をもとに、システムのさらなる改良や、当初の目的にある新しい多読プログラムの開発を行う予定でした。新しい多読プログラムが出来るため、多読教材の選別、教員の調整、クイズ作成、ソフトウェア、統計処理などを行いました。

## 4. 研究成果

本研究の上の成果として次の4点に集約されています。その4点にそって下に研究実績の概要を述べます。

(1) L1リテラシー研究の中でL2に応用できるものを発見する。(特に多読の分野において)

平成24年9月に行われた学会『Five Bells for English Teaching』(English Teachers' National Conference シドニー、オーストラリア)と平成25年7月の『2013 AATE/ALEA National Conference』学会(ブリスベン、オーストラリア)のL1リテラシーに関する学科に参加したほか、平成24~26年毎年の8月の間の2~3週間シドニーにあるバルメイン(Balmain)小学校の教員と校長先生にインタビュー、授業参加と手伝い、図書館視察などの情報収集と資料購入のため訪問しました。ここで得たものを以下(2)のベースに用いました。その上、現在日本にある多読を提供している公共図書館(豊田中央

図書館など-まだ数は少ない)を状況理解のため視察しました。

(2) グレイディッド・リーダーとネイティブ・リーダー文学の間の橋渡しとなるものを見つける。(児童文学など)

ネイティブ・リーダー文学の難しさは語彙のレベルと文法だけではなく、スラング、テキストの長さ、文化の背景と文学のデバイス(例えば、メタファー、風刺など)も学習者には大きなハードルになります。そこで(1)で購入したものを大学の授業と市の図書館のリーダーと試読し、学生にアンケートを実施し、学生と社会人にインタビューした結果、児童文学と大人の『Reluctant Reader』(読むことはできるけど読むのは嫌いな大人)向きに各レベルの本を導入する、効果が期待されるという結果になりました。

このような本をMReaderの各レベルに導入するため、すべての本を試すというのではなく、システムチックなアプローチが必要となります。そこで、次の三点を参考にし、数字を見ればある程度本のレベルが分かる簡単な制度を立ち上げました: 語彙数(長さ)、米国のScholastic出版社などを使っているLexile Frameworkという本のレベル分け制度(<https://www.lexile.com>)と日本のSSS英語学習法研究会の『読みやすさレベル』(<https://www.seg.co.jp/sss>)レベル分け制度。このレベル分け制度の数字を確認し、本の適切さを検討するため、定期的に授業に本を提供し、学生にアンケートやインタビューを行いました。このプロセスで選考した本で以下(3)を始めました。

授業内外でたくさんの新しいタイトルを学生に触れさせるため、京都産業大学の3号館5階にあるL.L.資料室に貸し出し図書館を作って、現在1,224冊と30教員に貸し出しするクラスセット(合計約700冊)になりました。その上、本校の図書館とL.L.資料室に『Books for Fun』というコーナーを作って、さまざまなジャンルや話題になっているタイトルを置きました。

(3) 上記(2)のものをMReaderに導入する。

上記(2)で学生と社会人に良い評価が出たもののテスト作りも始まり、平成24年と25年の間に、125タイトルのテストを作成し、MReaderにアップしました。平成26年度には、さらに約200冊を授業で試し、現在テストを作成中。

125冊の中には、L1リテラシーでよく話題になる学習障害ディスレキシア(Dyslexia)用の物も入っています。

(4) 新しい多読プログラムを開発する(ブックリスト作成など)

上記の作成済みテストと現在作成中のテスト以外に、MReader関係の資料の中で、グレイディッド・リーダーとネイティブ・リーダー文学の違いを明確にして、学生にのガイダンスを始めました。これに対する本研究者

が書いた説明書は現在複数の大学で利用されています。

この研究のインパクト: MReaderは(平成27年度5月現在)35ヶ国にある約350校(大学、高校など)で約11万人の学生に利用されています。この研究のために作ったテストはすべての学校で提供でき、平成24年と25年の間に作った125タイトルの中には、かなり人気のあるシリーズがたくさんが深まれており、ボランティア教員テスト作成者がさらにシリーズの続きのテストを作成し続けています。その上、公共の図書館と連携を取りながら、グレイディッド・リーダーとネイティブ・リーダー用のレベル別推奨本リストを提供した後、京都市岩倉図書館と京都市山科図書館には約2,000冊の英語多読のものが導入されました。公共図書館と小中学校で英語多読のアプローチを広げるため、TRC株式会社(日本で一番公共図書館に本を販売している会社)、京都市教育委員会の英語シャワー担当矢野先生、東京都台東区の区議会議員さん(文教委員)と会談を行いました。

この3年間に、公共図書館との活動の中で5回講演を行い、京都市から表彰を受け、その活動が2回新聞の記事になりました。

これに関する公共図書館関係の英語多読講演は次の通り行いました:

クラフリン・マシュー、'第3回 多読による英語学習(講演会)', 京都市岩倉図書館, 3月25日, 平成24年

クラフリン・マシュー、'第4回 多読による英語学習(講演会)', 京都市岩倉図書館, 3月9日, 平成25年

クラフリン・マシュー、'第5回 多読による英語学習(講演会)', 京都市岩倉図書館, 9月28日, 平成25年

クラフリン・マシュー、'第6回 多読による英語学習(講演会)', 京都市岩倉図書館, 6月28日, 平成26年。

クラフリン・マシュー、'多読による英語学習', 京都市山科図書館, 3月7日、平成27年。

これに対するいただいた賞:  
京都市子どもの読書活動優秀実践者表彰、教育長賞(個人) 平成25年度「子ども読書フォーラム」平成25年11月9日

これに対する新聞記事:  
“難度別の英語本好評 岩倉図書館、背表紙に色シール” 京都新聞夕刊 2013年11月26日、p.1。

“Read up on ways that can help us learn English.” The Japan Times, 2014年4月6日

MReaderの成功と広がり公共図書館の活動を見ると、この研究の国内外のインパクトが明確です。

今後の展望:

MReaderのレベル制度の中で、ネイティ

ブ・リーダー用の本の必要性は広がっています。適切な本を探し出してレベルを決め、テストを作成することは終わりのない作業です。その上、日本の社会の中でグローバル人材の育成と小学校3年生からの英語教育が話題になっているのに、ほとんどの市民と学校を支援している公共図書館でまだ多読学習法の本は置かれていません。今後この流れを変えて行くには長い時間かかりそうです。今後、今までに行ったアンケートやインタビューによるデータをもとにして、論文を出版する予定です。

#### 5. 主な発表論文等

この研究についての論文は現在作成中です。

〔学会発表〕(計6件)

(1) クラフリン・マシュー、' Extensive Reading and the Pandora ' s Box of English Literacy. ' The 7th Annual Extensive Reading Seminar, 平成26年9月28日、恵泉女学園大学、東京都多摩市

(2) クラフリン・マシュー、ロブ・トーマス、ギリス・フルタカ アマンダ、' Evaluating Post-Quiz Responses to MoodleReader and MReader. ' The 7th Annual Extensive Reading Seminar, 平成26年9月28日、恵泉女学園大学、東京都多摩市

(3) クラフリン・マシュー、ロブ・トーマス、ギリス・フルタカ アマンダ、キャンベル・アーロン、ハグレイ・エリク、' Getting Started with MReader. ' The 7th Annual Extensive Reading Seminar, 平成26年9月28日、恵泉女学園大学、東京都多摩市

(4) クラフリン・マシュー、ロブ・トーマス、ギリス・フルタカ アマンダ、' Culling information about graded readers via a post-quiz questionnaire. ' JALT CALL 2013 Conference & 6th ER Seminar, 平成25年6月2日、信州大学、松本市長野県

(5) クラフリン・マシュー、' Bridging the gap to native speaker books. ' JALT CALL 2013 Conference & 6th ER Seminar, 平成25年6月2日、信州大学、松本市長野県

(6) クラフリン・マシュー、' Bringing English literacy to your local library. Why not? ' , JALT Pan-SIG Conference 2012, 平成24年6月16日、広島大学、広島市広島県

〔その他〕

ホームページ等

『英語多読学習について』京都市岩倉図書館のホームページ:

[http://www2.kyotocitylib.jp/index.php?page\\_id=726](http://www2.kyotocitylib.jp/index.php?page_id=726)

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

クラフリン マシュー (CLAFLIN,

Matthew)

京都産業大学・外国語学部・准教授

研究者番号: 30387998

(2) 研究分担者

ロブ トーマス (ROBB, Thomas)

京都産業大学・外国語学部・教授

研究者番号: 30148366

ギリス・フルタカ アマンダ (GILLIS  
FURUTAKA, Amanda)

京都産業大学・外国語学部・教授

研究者番号: 00257768